

図書館へいこう!

2017上半期 芥川賞・直木賞 そろえています!

芥川賞

『影裏』

沼田真佑/著

会社の出向で移り住んだ岩手で、ただひとり心を許した同僚の日浅。いつしか疎遠になった男のもう一つの顔に、「3.11」以後、触れることになるのだが…。



直木賞

『月の満ち欠け』 佐藤 正午/著

目の前にいる、この七歳の娘が、いまは亡き我が子だというのか? 三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生、その過ぎし日々が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく。さまよえる魂の物語は、戦慄と落涙、衝撃のラストへ。



話題の新作本

アックス
『AX』

伊坂幸太郎/著

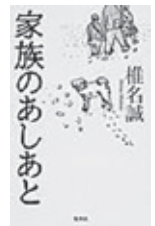
「兜」は一流の殺し屋だが、家では妻に頭が上がらない恐妻家。引退を考えながらも爆弾職人を軽々と始末した兜は、意外な人物から襲撃を受け…。



『家族のあしあと』

椎名誠/著

父がいた、母がいた、きょうだいがあった。シーナ少年が海辺の町で過ごした黄金の日々が、昭和の匂いとともに蘇る。



しゅうげんじま
『祝言島』

真梨幸子/著

1964年、小笠原諸島の祝言島の火山が噴火し、島民は避難した。後年、祝言島は“なかったこと”にされる。一方で祝言島を撮影したドキュメンタリー映画には恐ろしい映像が含まれていて…。



『ジャパン・トリップ』

岩城けい/著

オーストラリアから日本でのホームステイに参加したショーン。ステイ先の家族はとっても親切で幸せをかみしめていたショーンだけど、実は彼が日本に来たのにはある目的があって…。



『ゴースト』

中島京子/著

鬱蒼とした原宿の館に出没する女の子、20世紀を生き抜いたミシン、おじいちゃんの繰り返す謎の言葉、廃墟と化した台湾人留学生寮…。温かいユーモアに包まれた7つの幽霊連作集。



今月のBEST本 (7月の貸出回数上位本)

『変幻』

今野敏/著

警視庁捜査一課刑事の宇田川の同期、特殊班の女刑事が音信不通となった。かつて公安にいた同期と同じように…。



『北海道でがんとともに生きる』

大島寿美子/編



抗がん剤治療が先か、手術が先か? 家族には、職場にはなんと言う? 北海道で暮らす20代から70代までの〈普通の人たち〉28人が綴った「がん体験記」。

9・10月のイベント情報

- 9/9 14:00~ おはなし会
- 9/12 10:30~ 赤ちゃんおはなし会
- 9/16 14:00~ おはなし会
- 9/30 14:00~ おはなし会
- 10/7 10:10~ マスクプレイ・オペレッタ
「はなさかじいさん」

劇団バク マスクプレイ・オペレッタ 「はなさかじいさん」

全国で活躍中の劇団バクが今年もやってくる! 等身大の人形たちが歌い踊る迫力いっぱい舞台です。可愛いポチとやさしいおじいさんの友情が、きれいな花を咲かせます。

